

Peppolが輝かせる「主役」たち ～富士通、デジタルインボイスの「自分ごと」化～

2026年4月22日、デジタル庁は、富士通株式会社との間で、令和7年度における政府調達システム（GEPS）に対するデジタルインボイスでの請求について、「振り返り」を行いました。

令和7年度、富士通株式会社は、デジタル庁との間で計12件の契約案件を有しており、そのうち計11件の契約案件について、令和7年度末前後（令和8年3月下旬から4月上旬）にデジタルインボイスで請求を実施しました。

「振り返り」の中で、「政府調達におけるデジタルインボイスでの請求実施は、サービスプロバイダーミーティング（第1回、令和7年5月20日開催）で確認された既定路線だった」（富士通 村田氏）との説明とともに、「自社サービス（Fujitsu Peppol Connect Service）を用いてGEPSに対しデジタルインボイス請求を行えたことは私たち自身の経験値を高めるうえでも貴重な経験だった」との認識も示されました。



そのうえで、「令和7年度は『手探り』な部分もあった。先日の『GEPS e-invoice users' meeting』（第3回、令和8年3月5日開催）でも表明したとおり、この経験を社内で共有し、デジタル庁以外の省庁との契約案件に係る請求にも横展開していければと思う」（村田氏）との展望が示されました。